谷木由利著
『中学校国語科における音読・朗読指導の実践的研究』

著者が目指しておられる音読・朗読指導は「朗読の上達や朗読技術の習得を企図する」指導ではなく、「真の国語学力を基礎とした人間形成に培う」指導である。ここ著者独自の指導観がある。本書は、この指導のあり方が、おもに大村はまの指導理論・実績の分析を通して考究されている。章立ては、序章、終章のほか以下の四章から成る。第一章　音読・朗読指導の動向と課題、第二章　朗読指導の創意とくふう　その一　ー大村はまの場合ー、第三章　朗読指導の創意とくふう　その二　ー大村はまの場合ー、第四章　朗読指導の基盤としての事故修練　ー大村はまの場合ー

この中で著者は、大村はまの指導が、確固とした学力観に基づいていること、学習者の主体性が重視されていること、人と人とのコミュニケーションに根ざしていることを指摘しつつ、目指すべき音読・朗読指導の具体的な内容を示しておられる。

本書は、音読・朗読とは何か、それによってどのような力をどのように育てるのかという問題を究明していく上で、私達に多くの示唆を与えてくれる高著である。

（B５判、二二五ページ、平成五年二月一日、渓水社、三五〇〇円）

（中西　淳）